



Joseph Totsis ⇄ Shoko Otera

2019年5月5日

## エペソ4:17-32

それでは エペソ人への手紙4章を開いてください。神の御言葉の旅を共に続けましょう。少し思い出しておきましょう。エペソ人への手紙は6章から成り立っていますが、前半3章と後半3章の間で はっきりと分けることができます。

前半3章は 教義、そして後半は その教義を実際に適用すること について書かれています。使徒の教えは 神がなさったことすべて、神は今何をしているのか、これから何をされるのか について 私たちに教えてくれます。

次の箇所は パウロがエペソ1：18-19で祈った祈りです。

エペソ 1:18-19 また、あなたがたの心の目が はっきり見えるようになって、神の召しによって与えられる望みが どのようなものか、聖徒の受け継ぐものが どのように栄光に富んだものか、19 また、神の全能の力の働きによって 私たち信じる者に働く神のすぐれた力が どのように偉大なものであるかを、あなたがたが 知ることができますように。

つまり この手紙の前半の3章は 「信じる者に与えられる財産」について まとめられており、後半の3章は「信じる者の歩み」についての まとめだと言えるでしょう。

以前にもお話ししたのですが、聖書にある「歩み」という言葉は 私たちのライフスタイル、すなわち私たちが どう考え、どう生きるか、を指して よく使われます。

私たちのクリスチャンの歩みは 神から好意的な態度を得ようとするものでも、神の愛の評価に値しようとするものでも ありません。

むしろ、それは 1～3章に書かれていたように、神が 私たちをどれほど愛しているか、神が 私たちにどれほど良いことをしてくれたか に応えるものです。

始めたのは神様、そして私たちは それに応答するのです。

### We don't love Him so He will love us. No!

私たちが神を愛したから 神が私たちを愛してくれるのではありません。ちがいますよ。

1ヨハネ 4:19 私たちは愛しています。神がまず 私たちを愛してくださったからです。

では、(エペソ人への手紙1から3章に書かれている) 神が私たちにしてくださった事を考えるなら 私たちは神のために何をすべきでしょうか?(4:1)

エペソ4：1 その召しにふさわしく歩みなさい。

### ふさわしく歩みなさい！

これは この手紙の後半の3章全体を紹介する 重要なポイントです。

ふさわしく歩むとは どういう意味でしょう？

『歩む』という言葉は まさに 行動するという意味を含んでいます！

ヤコブ 1:22 また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であっては いけません。

言い換えるなら、聖書は 私たちが何をすべきか を学ぶために与えられただけでなく、学んだことを実行するために 与えられたのです！

私たちは よく、「何をすればいいのかわからない」と思います。

でも 本当の質問は「神の聖なる御言葉、すなわち 聖書から学んだ忠告や道理を 私たちは適用しているか、実行しているか、すくなくとも 考えているか？」ということです。

英語の単語の頭文字からできた言葉があります。日本語に当てはまるかどうかはわかりませんが、ここに一つ 良いがあるので 英語の勉強で考えてみましょう。

What does the B.I.B.L.E. stand for?

聖書は英語でバイブル (B I B L E) です。では 一つ一つのアルファベットは何を表しているのでしょうか？

- **Basic Instructions Before Leaving Earth (この世を去る前に与える 基本的命令)**です。

あなたが聖書で学んだ道理を 祈るように よく考えてみましょう。そうすると この人生がもたらすあらゆる、いかなる状況においても あなたが何をなすべきか わかるでしょう。

私たちは 今 召しにふさわしく歩めと 強く忠告されています。そしてパウロは私たちのために後半3章で 4つの分類を 詳しく説明します。

3-6章で強調されている『ふさわしく歩む』4つの主な種類は何でしょう？

1. 団結して歩みなさい。私たちは 先月これを学びました。4章2節~16節です。
2. 聖く 歩みなさい。私たちは これを今日の学びから始めます。4：17-5：18です。
3. 調和して 歩みなさい。5：19-6：9です。

そして最後 4番目は 勝利の内に 歩みなさい。すなわち勝利のうちに 断固とした態度をとりなさい。6：10-18です。

### 団結、純潔、調和、勝利

今日は どうしたら 聖く歩めるのかを見ていきましょう。パウロは 聖く歩むことの正反対を強調することによって 説明します。

17 そこで 私は、主にあって言明し、おごそかに勧めます。もはや、異邦人がむなしい心で歩んでいるように歩んではなりません。

異邦人というのは ノンクリスチャンのことを パウロは言っています。

クリスチャンは 以前の 神から離れて 霊的に死んでいた時のように 歩むべきではありません。つまり

17b むなしい心で歩んではなりません。

18 彼らは、その知性において暗くなり、彼らのうちにある無知と、かたくなな心とのゆえに、神のいのちから 遠く離れています。

19 道徳的に無感覚となった彼らは、好色に身をゆだねて、あらゆる不潔な行いを むさぼるようになっていきます。

パウロが強調しているのは むなしい心、暗くされた知性、無知 といった ノンクリスチャンの状態です。

よく クリスチャンは洗脳されているのだ、という人がいます。そして 私は 本当にその通りだ、と思っています。かつて私は この世の 無駄で無益な物を追い求めることに あまりにも気を取られていました。だから 私は 自分の生活が 実際は どれほど絶望的で ボロボロであるかを知るために十分に洗ってもらうことが必要でした。

ローマ 12:2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって 自分を変えなさい。

心の一新によって 自分を変えなさい。

4：23を先に見てみると、パウロは ここでもこう言っています。「またあなたがたが心の霊において新しくされ」

1:18にあったように 「あなたがたの心の目がはっきり見えるようにな」と、人生における私たちの価値観、目標、目的は 変わり始め、変えられ始め、一新され始めます。

聖く歩む とは 信仰心の無い世の中の 反対方向に歩くことです。

信仰心の無い世界は どんな歩みになるのでしょうか？

(17節) むなしい心で (19節) 好色に身をゆだねて あらゆる不潔な行いをむさぼる  
なぜ 信仰心の無い世界は このような歩みになるのでしょうか？

それは、無知と かたくなな心のゆえに 神から離れ 道徳的に無感覚となり、知性が暗くなるからです。

私たちの心は つまらないものではなく、目的のあるものです。

私たちの知性は 暗いものではなく、輝いています。

私たちは 神から離れたものではなく、聖霊なる神によって 認められています。

だから 私たちは もはや 信仰心の無い者のように歩んではいけない、と忠告されているのです。

エペソ4:20 しかし、あなたがたはキリストのことを、このようには学びませんでした。

「キリストのことを 学ぶ」とは 神について よく知っている というより、神との親しさ、親しい関係 という意味を含んでいます。

この世の偽の宗教と違い 私たちは 主、救い主である神と 個人的関係を持つことができます。それは なぜなら 神は生きておられるからです！

たとえば 神から私たちへのラブレターである聖書を読むとき、私たちは神に対し、正直に言う事が出来ます。「自分の罪を気づかされました」「よくわかりません」「思い出しました」「恵まれました」  
そもそも 私たちは神を欺くことはできません。だから 神に正直であってください。そうした時、神について 学問的に単に知るのではなく、個人的に 神と親しい関係を持っている自分を見つけるでしょう。

ただし、ほんとうにあなたがたが キリストに聞き、キリストにあって教えられているのならばです。  
まさしく真理は イエスにあるのですから。

私たちが 以前の墮落した状態で この世から学んだ事と比べて

私たちは これまでに キリストから どんな真理を学んできましたか？ (22-23節)

22その教えとは、あなたがたの以前の生活について言うならば、人を欺く情欲によって滅びて行く  
古い人を脱ぎ捨てるべきこと、23また あなたがたが心の霊において新しくされ、24真理に基づく義と  
聖をもって 神にかたどり造り出された、新しい人を身に着るべきことでした。

古い人を脱ぎ捨てる (22節)

私たちの心の霊において 新しくされる (23節)

新しい人を身に着る (24節)

“古い人”というのは 私たちが キリストを信じる以前の生き方のことを 人間のように表しています。それは 生来の性質に基づく 自分を傷つけるものでした。

22節でパウロは 「人を欺く情欲によって滅びて行く 古い人」と表現しました。

“新しい人”とは キリストにあって 新しく生まれ変わった 私たちの命のことを 人のように表した言葉です。

2コリント 5:17 だれでも キリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

パウロはよく 服を変えるという表現を クリスチャンが その人生において キリストが起こす変革の業に 積極的に参加するという クリスチャンとしての責任を表現するのに 使いました。

私たちは どうしたら 心の霊において 新しくされるのでしょうか？ (22.24節)

古い人を脱ぎ棄て、新しい人を身に着ることによって、そうなります。

言い換えるなら、今すぐ決心しなさい！ 両方を着ることはできません！ という事です。

イエスは 黙示録3：16で 古い人と新しい人の 両方を着ようとする人の事を 『なまぬるい飲み物』と言い、イエスはそれを吐き出すことになるようです。

黙示録 3:16 このように、あなたはなまぬるく、熱くも冷たくもないので、わたしの口からあなたを吐き出そう。

ヨシュア記24：15では ヨシュアも イスラエルの民に 強く忠告しています 「あなたがたが仕えようと思うものを、どれでも、きょう選ぶがよい」と。

ヨシュア記 24:15 もしも【主】に仕えることがあなたがたの気に入らないなら、川の向こうにいたあなたがたの先祖たちが仕えた神々でも、今あなたがたが住んでいる地のエモリ人の神々でも、あなたがたが仕えようと思うものを、どれでも、きょう選ぶがよい。私と私の家とは、【主】に仕える。」

私たちは 決めなければいけません。

第二ペテロ3：9は 主なる神は 『ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が 悔い改めに進むことを 望んでおられる』と、私たちに教えています。

2ペテロ 3:9 主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを 遅らせておられるではありません。かえって、あなたがたに対して 忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。

悔い改めという言葉は 新約聖書の中で50回使われており、それは文字通り、『人が心を変えること』を意味します。

何について 私たちは心を変えるのでしょうか？ それは、罪について、イエスが何者であるか について、イエスが私たちのために何をしたのか について です。

その心の変化が 魂の変化となり、行動の変化、もしくは霊的衣の変化 という結果を導きます。

エペソ4：25-32でパウロは 私たちが実際 どんな風に 古い人を脱ぎ捨て、新しい人を着るのが具体的な例を挙げています。

ですから、あなたがたは 偽りを捨て、おのおの隣人に対して 真実を語りなさい。私たちは からだの一部として 互いにそれぞれのものだからです。

さて、個人的な意見を言いますと、ノンクリスチャンの人が不正直であっても、私は驚きません。

でも クリスチャンなら 「相手を傷つけないように 本当の気持ちをわからせる ちょっとしたヒントを与える話し方」と 「本当の気持ちと違うことを言う話し方」を はっきりと区別する必要があると思います。

たとえば あるクリスチャンが あなたをまっすぐに見て 満面の笑みで『YES』と言うのに、本当は『NO』だと思っている時、その人は 空気の中に 『本当はNO』という秘密のメッセージを込めて言っているのに、あなたはその空気を読めず 『YES』を本当に『YES』だと信じているのですから あとで その人は あなたに対して不機嫌になります。

これって 私にだけ起こることなんですか???

イエスは 次のように言っています。

マタ 5:37 あなたがたは、『然り、然り』『否、否』と言いなさい。それ以上のことは、悪い者から出るのである。」 (新共同訳)

イエスによるなら、私が言っているのではありませんよ、イエスが言っているのです。本当は『NO』とか 『わかりません』とか『ほっといてほしい』とか それ以上のことを意味するのに 『YES』と言うのは 悪いもの、つまりサタンから 出るのです。

さて もしこの引用箇所が もっと精密に言葉を選ぶべきだと説得するのに 足りないなら、ヤコブは次のように書いています。

ヤコブ 5:12b ただ、「はい」を「はい」、「いいえ」を「いいえ」としなさい。それは、あなたがたが、さばきに会わないためです。

これは 本当に大切な事です。だから ある種の文化的基準として 軽く取り扱うべきではありません。なぜなら クリスマンとして 私たちの国籍は天国にあるのだから (ピリピ3:20) このことは 住んでいる文化よりも 高い基準を保つべきなのです。

より高い基準とは もちろん 神の御言葉です！

25節でパウロは ゼカリヤ書8:16からの引用を用いて 偽り(つまり古い人)をやめ、真実(つまり新しい人)をお互いに話すように 呼び掛けます。なぜなら 全てのクリスマンは キリストにあって一つだからです。

26-27 怒っても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで 憤ったままでいてはいけません。27悪魔に機会を与えないようにしなさい。

ここでパウロは 詩編4:4を引用し、怒りの全てが罪というわけではない と説明しています。しかし、彼はまた その怒りが あっという間に サタンが私たちに誘惑し 罪を犯させる状況に発展する可能性があることも 知っていました。

人はどうやって 罪を犯さずに 怒るのでしょうか？ それは いつものごとく イエスが例を示してくれます。

イエスが宮で 机をひっくり返した時、それは 気持ちが傷ついたからとか、無視されたり拒絶されたと感じたから 怒ったものではありません。

イエスの怒りは正しいものでした。なぜなら そこでは 人々が父なる神を自由に礼拝するのが 利用され、邪魔されていたからでした。

誰かが 父なる神を自由に礼拝するのを 利用され、邪魔されている時、どうぞ怒ってください！ イエスは昔も今も 私たちの模範です。

クリスマンとして 不正や罪に対しては 制御された怒りで応答しても構いません。しかし、絶対に怒りや無慈悲に 自分が食いつくされてはいけません。

(26b)日が暮れるまで 憤ったままでいてはいけません

なぜいけないのですか？ なぜなら 私たちが心に抱く無慈悲は 27悪魔に機会を与えるからです。

許そうとしない怒り(=古い人)を脱ぎ捨て 許し(=新しい人)を着なさい。

4:28 盗みをしている者は、もう盗んではいけません。かえって、困っている人に施しをするため、自分の手をもって 正しい仕事をし、ほねおって 働きなさい。

これは単に 盗みをやめなさい、貪欲はいけない、と言っているものではありません。むしろ 思いやりを持ちなさい、態度を本当に変化させなさい、という命令です。

盗み(すなわち古い人)を脱ぎ去り、与える行為(すなわち新しい人)を身に纏いなさい。

4:29 悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に 恵みを与えなさい。

私たちの言葉は 恵みを与え、その人がキリストに近づく助け となるべきです。もちろんサタンは 人々を引き裂き、キリストの働きを破壊する発言を 奨励します。

言葉の力を忘れている人に 宿題を出しましょう。ヤコブの手紙3章を読んでおいてください。

他の人を破壊する発言(すなわち古い人)を脱ぎ捨て、他の人を建てあげる発言(すなわち新しい人)を身に纏ってください。

あれをしなさい、これをしてはいけない、と 私たちはなぜ 気にしなければいけないのでしょうか？

救いの日のために 私たちを保証してくださった聖霊を 悲しませないように、です。

4:30 神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって 証印を押されているのです。

もし 私たちは一人でない、私たちの中には聖霊がいてくださる と気づくなら、私たちは 考えること、読む物、見る物、言う事、する事について もっと注意深くなるでしょう。

あなたは 自分が愛する人 大切に思う人 尊敬する人を失望させることを 恐れたことがありますか？ 私は エイミーを失望させるのを恐れています。本当ですよ。エイミーを悲しませた時 私は もっと悲しくなります。

では 主なる神を失望させるのを 私たちはどれほど恐れるのでしょうか？

主なる神を悲しませてしまった時 私たちは どれほど悲しくなるのでしょうか？

19節に ノンクリスチャンは 道徳的に無感覚で 好色に身をゆだねて、あらゆる不潔な行ないをむさぼるようになっていて、とありました。

道徳的に無感覚、というのは 霊的な死の事、そして 自分自身の罪について 確信も良心の呵責も全く言い表せない人のことを言っています。

悲しいことに、キリストにあって享受する自由を 罪を犯す許可証のように使う ‘いわゆる’クリスチャン も存在します。

彼らには 確信も良心の呵責も後悔のかけらもありません。

ノンクリスチャンが 罪の確信も良心の呵責も後悔も持たないのは 予想がつきます。でも、生まれ変わったクリスチャンについてはどうでしょう？ どうして 彼らが ノンクリスチャンと同様になり得るのでしょうか？

なぜ彼らは 自分の内に住む 聖霊なる神を深く悲しませていることに 感じない、気づかない、気にすることがないのでしょ

うか？ 以前 このような説明を聞いたことがあります。

私が 死んだ人の体の上に800ポンドの重しを落としたとしましょう。

その人は それを感じますか？

その人に 痛みはありますか？

その重しは その人を嫌な気分にするのでしょうか？

もちろん、そんなことはありません！ なぜですか？

その人は死んでいるからです。そこがポイントです！

もしあなたが 罪の重さを感じない、それほど重く思わない、あなたに何も影響を与えないのなら、それは明らかに あなたが道徳的に無感覚であり、霊的に死んでいるノンクリスチャンとなんら変わりはない といえます。

私たちは 聖霊なる神を悲ませること (=古い人) を脱ぎ捨て、聖霊なる神を賛美する (=新しい人) を身にまとうべきです。

無慈悲、憤り、怒り、叫び、そしりなどを、いっさいの悪意とともに、みな 捨て去りなさい。

26節でパウロは すでに説明した 聖霊なる神を悲ませる事について さらに解き明かします。

敵意、激しい怒り、憤り、抗議の叫びは 捨て去るべきです。明日ではありません、今日 捨ててください！それも 日が暮れるまでに！

冒涇する言葉、中傷、嘘のような 悪口を 捨ててしまいなさい！

『いっさいの悪意ともに』 とは 他人を傷つける悪意、邪悪な考え 全てを意味します。

イエスも次のように言いました。

ヨハネ 10:10a盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。

私たちは このような 神を悲しませる『古い人』を脱ぎ捨て、  
何を身にまとうべきですか？

親切、心の優しさ、許すこと。 それらは全て 神がキリストにおいて あなたを赦したように  
です。

4:32 お互いに親切にし、心の優しい人となり、神が キリストにおいて あなたがたを赦して下さった  
ように、互いに赦し合いなさい。

ということで 全てが 最初に戻りました。

このエペソ人への手紙4章、そして残りの5.6章は 前半の1-3章に記された 神が 私やあなたにして  
くださった事全てに応答して書かれていて、全てを包括した まとめのパートです。

神がキリストにおいてあなたがたを赦して下さったように (32b)

なぜ私たちは (4章にあったように 一つになった 聖い) ふさわしい歩みをすべきなのでしょう？

なぜ私たちは 『古い人』を脱ぎ捨て 『新しい人』を まとうべきなのでしょう？

なぜ私たちは お互いに親切で 優しい気持ちを持ち、許し合うべきなのでしょう？

それは 神がキリストにあって 私たちを赦して下さったからです！